

コロナ禍における音声収録に関するアンケート調査

北村達也（甲南大） 高野佐代子（金工大） 石本祐一（国語研）

1. 調査の目的

- ◆ 音声収録は音声研究にとって重要な作業
- ◆ COVID-19は飛沫感染および接触感染により拡大するため、音声収録への大きな影響が予想される
- ◆ 日本音響学会音声研究委員会によるアンケート結果を学会員の皆様と共有し、議論したい

2. 調査方法

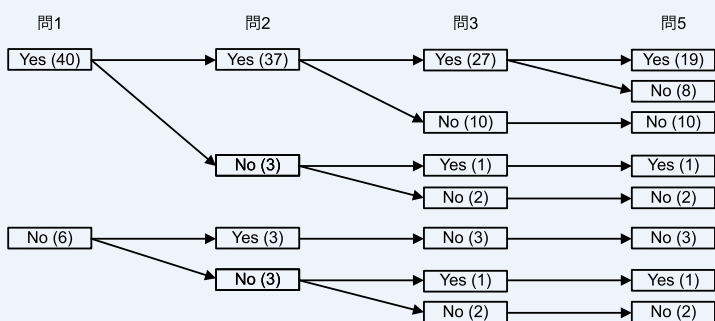
- ◆ オンラインフォーム（Google forms）にて実施
- ◆ 音声研究者メーリングリスト（onsei-mail）にてアナウンス
- ◆ 調査期間：2021年10月11日～11月3日（約3週間）

アンケート項目

- 【問1】 COVID-19感染拡大以前、あなたの研究・開発活動の中で
音声収録することはありましたか？
- 【問2】 2020年1月時点で、2020年2月以降の音声収録を計画して
いましたか？
- 【問3】 COVID-19感染拡大以降からワクチン接種開始までの期間
（およそ2020年2月から2021年4月）、音声収録を行いましたか？
- 【問4】 問3にて「音声収録を行った」とご回答された方にうかが
います。COVID-19感染拡大以降からワクチン接種開始ま
での音声収録にて採られた対応にチェックしてください。
- 【問5】 ワクチン接種開始（およそ2021年4月）以降、音声収録を行
いましたか？
- 【問6】 問5にて「音声収録を行った」とご回答された方にうかが
います。ワクチン接種開始以降の音声収録にて採られた対
応（あるいは今後採る予定の対応）にチェックしてください。
- 【問7】 コロナ禍の音声収録についてご意見がありましたら自由に
ご記入ください。

3. 結果

46件の回答が得られた



図：問1、問2、問3、問5の回答の決定木。カッコ内は回答数。

- ◆ 問1：ほとんどの回答者(40名)が音声収録を実施
- ◆ 問2：ほとんどの回答者(37名)が2020年2月以降の収録を計画
- ◆ 問3：2020年2月以降に実際に収録を実施したのは27名
- ◆ 問5：ワクチン接種後も収録を実施した人が減少(21名)

コロナ禍の影響大。再開もままならず。

4. プロトコル/ガイドラインの例

① 日本生理心理学会COVID-19感染予防対策ワーキンググループ「生理心理学の実験における新型コロナウイルス感染症の予防対策」生理心理学と精神生理学（2020）

COVID-19の感染予防を行いながら脳波研究を行うためのプロトコル（Simmons & Luck, 2020）の翻訳を提供

② 日本音声製作者連盟「音声制作における新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン(第1版)」(2020)



①



②

謝辞：アンケートにご協力いただいた皆様に感謝いたします。